

佐世保市立東明中学校



〒859-3244
佐世保市新行江町957番地
校長 江頭 正次郎
生徒数 188名 (R4,5,1 現在)
学級数 9学級



本校の事業テーマ
**「明るさ・素直さ・たくましさ」いっぱいの
活気あふれる学校教育の創造**

目 的

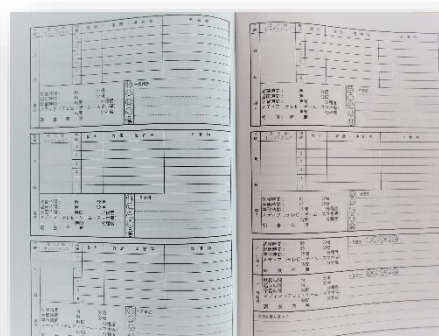
- ①学校教育目標の具現化を図る。
- ②学校経営および経営方針の重点努力目標を踏まえた教育活動とする。
- ③体験活動を推進し、開かれた学校・特色ある学校づくりを目指す。

具体的な実践内容

1 生徒に関わる実践内容

① オリジナル生活ノート「学問のススメ」の作成・活用

本年度も、学力向上のために、オリジナルノート「学問のススメ」を作成した。表紙には、本校のイメージキャラクター「ひま丸」を配置し、本校のオリジナル性を表現している。内容は、学校教育目標、家庭学習のすすめ方、各教科の学習ポイント、長期休業中の計画、生徒心得を記載している。毎日、この生活ノートに教科連絡や日々の生活の様子を記録し、担任と生徒、学校と家庭の連絡帳としても活用している。このことにより、基本的生活習慣の確立や家庭学習の定着を図り、学力向上につなげている。



② オリジナルのぼり旗・生徒会横断幕の製作

数年前から、学校のシンボルとして「のぼり旗」を製作している。生徒を元気づけるように迎え、本校の雰囲気明るくしている。部活動等の応援旗としても活用し、本校の特色として定着している。

また、生徒会の横断幕を製作し、生徒会活動の活性化を図っている。

このような取組を継続することによって、生徒会活動の活性化を図り、今年度の生徒会テーマを前面にアピールすることで全校生徒の士気が高まり、生徒一人一人が、学校に愛着を感じ、愛校心をより一層高めている。



校門の「のぼり旗」



生徒会横断幕

③ 思春期教室（3学年対象）9月実施

長崎県看護協会 助産師 山口 沙織様を招聘し、思春期教室を実施した。成長期における男女の違いなど、生徒自身にわかりやすく話を聞いた。



④ 職場体験学習

昨年度までは、新型コロナウイルス感染症の影響で、事業所への訪問ができていなかったが、3年ぶりに事業所へ出向いて、実際の職場の雰囲気を体験することができた。

今回は、22事業所にご協力いただき、生徒たちは、事前に電話で自己紹介やあいさつを行い、打合せをして当日を迎えた。特に初日は、初めて事業所に赴き緊張した表情で、自己紹介を行い説明を聞きながら慣れない職場の仕事を体験できた。仕事の準備や作業を通じて、普段では見ることのできない苦労ややりがいを感じ取ることができ、少しずつであるが、要領もわかり自ら作業ができるようになり、生徒達も学校では学ぶことができない今回の貴重な体験を通じてキャリア教育の一環である勤労観や職業観を身に付けることができた。



⑤ 薬物乱用防止教室 3学年対象

学校薬剤師の嬉野先生を講師として招き、3年生全員が参加した。生徒たちはタバコの害を中心に、薬物についての知識を得、薬物の人体に与える害や誘惑に負けない強い意志、態度を身に付けることができた。



⑥ 映画「青い鳥」鑑賞 全学年対象 12月1日実施

人権集会の一環として、直木賞受賞作家 重松 清作の「青い鳥」の映画を鑑賞した。生徒自身も身近な内容として捉え、真剣な表情で鑑賞した。学校生活における相手への思いやりや相手を認めることの大切さがわかった集会となった。

⑦ 環境美化活動 全学年対象 通年

各クラスの花壇用に花の苗を購入し、植え付けから水やりまでを行わせている。各クラス同士で競わせ整備させているが、休みの日も登校して水やりをする生徒もあり、責任感や協力性、自然愛護について、生徒の資質を向上させる効果があった。



2 学校運営に関わる実践内容

① 「学びの共同体」による授業研究会 教職員対象 7月7日、1月13日実施

「学びの共同体」による授業研究（校内研修）

（令和4年7月7日、令和5年1月19日・東明中学校・教職員対象）

「九州学びの会」スーパーバイザー藤木文博先生を講師として迎え、「学びの共同体」に関する研修を実施した。藤木先生には終日在校して頂き、授業参観、授業研究における講話をいただいた。

藤木先生の講話を受け、教職員の授業改善の意識が高まり、授業形態や授業の進め方に変容が見られた。今後の授業改善について指導を仰ぐとともに、本校のさらなる授業改善を進めていく予定である。



3 保護者や地域にかかわる実践内容

① メディア講習会(家庭教育講座) 全学年・保護者対象 6月30日実施

県のメディア安全指導員の立岡みや子氏による講演会を実施した。スマートフォンやライン使用の落とし穴などについて理解を深めることができた。保護者に対してもお話いただき、子どもの指導についても効果的であった。



② 土曜日授業（かるがもウォーク） 全学年・保護者対象 10月29日実施

例年、健全育成会の協力を得て、育友会主催で実施していた「かるがもウォーク」（ウォークラリー）を土曜授業として開催した。今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策として、全員マスク着用、ソーシャルディスタンスを保っての実施となった。全校生徒が参加し、健全育成会や育友会の協力のもと親子のつながりや地域の自然の美しさを堪能できた。



③ 授業参観の実施 保護者対象 通年

学校教育活動の公開のため、月1回の授業参観を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、5回しか実施できなかった。



④ 親子美化作業の実施

約1時間の美化作業となったが、普段出来ないグラウンドの除草、教室廊下の窓ふき、手洗い場のカビ落としなど生徒、保護者、教職員で協力して取り組むことができた。



成果と課題

成 果

- ・各行事や取組を通して生徒たちが生き生きと活動し、たくましく成長したことがうかがえる。「学問のススメ」の作成により、学力向上や基本的生活習慣の定着を図ることができた。また、オリジナルのぼり旗や生徒会横断幕の制作は、生徒たちの所属感、愛校心をより一層高め、向上させることができた。
- ・外部講師を招いた取組（薬物乱用防止教室・思春期教室）においては、生徒が興味を持って真剣に話を聞き、成果を上げることができた。実施後の感想文を読んでも、それぞれのテーマについて深く考えていることがわかる。
- ・人権学習「青い鳥」鑑賞では、生徒は、彼ら自身も身近な内容として捉え、真剣な表情で鑑賞できた。これからの学校生活における相手への思いやりや相手を認めることの大切さがわかった機会となった。
- ・「環境美化作業」などの取組では、生徒たちの環境改善に対する意識が高まり、生徒たちの手で校内美化を実感することができた。
- ・授業参観の実施など、生徒の情操面や生活面で好ましい影響があった。

今年度も、昨年に引き続きコロナ禍のために、実施できない行事等もあったが、随分と以前の形に戻りつつあるように感じる。次年度以降、新型コロナウイルス感染症が終息に向かえば、改めて再構築し再開していきたい。

この「特色ある学校づくり」のような教育活動を通して、普段の授業では学べない勤労観、職業観、将来像を実体験によって学ばせたい。

今後とも、このような体験を重視しながら本校の教育活動を推進していきたい。

課 題

- ・時数も限られている中であるので、3年間の系統を考え、無理や無駄のない計画を立案、実行していく。
- ・特に、総合的な学習の時間の見直しを行い、地場産業等、地域の特色を生かした取組（みかん学習、歴史学習（無線塔等）、福祉教育等）についても検討する。
- ・家庭学習の習慣化を目指した生徒の学習意欲の向上を図る。
- ・地域や保護者の学校教育へのさらなる信頼を深めるために連携を密にしていく。